

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【見沼小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 正しい漢字の読み書きや言葉の特徴や使い方(国語)、加減乗除の計算や図形(算数)等に係る基礎・基本の定着に課題がみられる。 <指導上の課題> 確実な定着を図るための、反復・習熟の十分な時間の確保。	⇒ 基礎・基本の定着のため、毎週水曜の業前活動「スタディタイム」の実施。「ドリルパーク」や「スタディサブリ」等、ICTを活用し、児童の意欲向上を図りながら、継続して基礎学力の向上を図る。【年間を通して毎週1回実施。市学習状況調査の知識・技能に係る平均正答率の経年比較】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 文章から必要な情報を的確に読み取ったり、問題に対する考えや説明を正確に書いたりすることに課題がみられる。 <指導上の課題> 児童が主体的に課題に取り組むことのできるための指導・支援の充実。	⇒ 授業において、課題解決のために児童が主体的に判断し、考え表現する時間を十分に確保していく。また、協働的な学びの実践を通して、考えたり、考えたことを伝えたり、まとめたりできるようにしていく。【年間を通して、単元ごとに最低1回は実施。市学習状況調査の思考・判断・表現に係る平均正答率の経年比較】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、「我が国の言語文化に関する事項」の問題に若干課題がみられた。問題文や選択肢を正確に読み取り、適切な解答を選ぶことが難しい傾向にあると捉えることができる。算数では、図形の定義や数直線上に示された分数の読み取りにおいて課題がみられた。基礎的な部分の既習事項の定着が不十分であることが原因だと考えられる。理科においては、身の回りの金属の電気を通す性質や磁石にひきつけられる性質を問われる問題において課題がみられた。全体的には、理解できていた状況ではあるが、基礎・基本を問われる問題での誤答率が目立つことから、既習事項の定着に課題がみられる。そのため、正しい知識・技能を身に付けることができるように指導を継続していく。
思考・判断・表現	国語では、問題文や選択肢を適切に読み取る部分の誤答率や無解答率が若干目立つ結果である。算数では、グラフの読み取りや比較、単位分数に関連した問題等に課題がみられた。理科では電気の回路において正答率が低い結果であった。今回は三教科とも、特に記述式の問題における問題に対する誤答率や無解答率が目立つ状況である。問題を読み、与えられた条件を含めるように解答を記述したり、提示されたグラフ等を読み取って解答を記述したりすることに苦手意識がみられる。引き続き、学年の実態に合わせて、授業中の書く活動を丁寧に行っていくようにする。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	
	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	基本的には、計画通りに「スタディタイム」を実施できた。活動においても、「ドリルパーク」や「スタディサブリ」だけでなく、必要に応じて児童の理解が低い部分のプリントを使用する等、実態に応じて取り組むことができた。今後も、児童の実態に合わせて、正しい知識・技能を身に付けられるように学校全体で取組を継続していく。
思考・判断・表現	B	単元での実施は難しい部分もあったが、それぞれの授業で児童が自分の考えを書く活動を継続して実施できている状態である。学年に応じた取組にはなるが、書くだけでなく、互いの考えを伝えたり、複数人で協力してまとめる活動も行ってきた。今後も、継続して活動に取り組んでいく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)